

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

葉月 月次祭挨拶

サルートン 皆様こんにちは
葉月の月次祭にご参拝頂きありがとうございます。

八月は宣伝使昇・新任研修会が六日の午前中にあり、午後より月宮宝座参拝後に朝鳴館でみ手代ご下付が行われました。

六日と七日には、直心会のバザーが開催されました。

七日には瑞生大祭が執行され全国各地から六三二人の参拝者がお見えになりました。

祭典後には、教主様より宣伝使辞令が各代表者に渡されました。

名古屋分苑では、三人の方々の辞令を預かってきましたので挨拶終了後にお渡しいたします。教主様におかれましては、バザー会場にお越しになられ、各地の方々と交流をされていらしやいました。バザーの展出に協力された方々

た販売に携わった方々お疲れさまでした。

此度の一連での祭典で感心させられたことがあります。

それは、八日に高熊山祭典がありその後、瑞泉苑祭典になりますが、今回私は、お山の祭典に参加できずに瑞泉苑で下車し皆様の到着を待つことにしました。会場の椅子席は配列されていましたが、座板に埃が付着していたのを直心会の方々が全部拭き取られ、また蚊取り線香を配置され参拝者の来苑をお待ちになられていました。

八月九日は、神集祭最終日で綾部に移動いたしました。祭典でクラスターが発生したため、例祭と窓口業務が急遽閉鎖されました。教主様のご面会も中止となり神集祭最終日祭典も縮小され、午後八時前に終了し四泊五日の本部での生活を満喫させていただきました。

名古屋分苑で八月二十七日二

十八日に予定していましたが葬祭研修会も愛知県での感染者数が一万八千人に増えたため急遽中止することにし、教区の方々に連絡を致しました。

今年に入って教本講習会が二回、葬祭研修会も中止となり誠に申し訳ありません。九月二十四日と二十五日の祭式講習会に葬祭研修会も含めて開催します。講師は出口拓生様をお願いしております。

皆様におかれましても健康に気を付けて、熱中症・コロナ感染にならないようにお過ごしください。

本日の参拝ありがとうございます。コーランダンコン

「無邪気になれ」

信仰覚書五巻より

人間がもっと無邪気にならねば、実際やりきれない。ひがみ根性は小人のつねだ。この根性のために、毎日、どれだけ悲劇が生みだされているか、思ってもいやになる。

身びいきなもの人である。自己の利害関係以外のことには、一切、無関心なもの人である。

目前のことを、すべて自己と連絡をつけて考えたがるものは人である。このために、どれだけ誤った得て勝手の判断をたがいにし合っては、あとで悔いでいることであろう。悔いるのはまだ良いが、いつ迄たつても目がさめずに、それに執着している連中ほど始末に負えぬものはない。

進行 井藤 良則
●瑞生大祭献金バザー
報告とお礼

日頃より直心会の活動にご協力ご支援賜りましてありがとうございます。

この度、皆様にご協力頂きましたバザーですが、名古屋分苑と瑞生大祭にて開催させて頂きました。その結果、十一万五千四百一円の献金をさせて頂く事ができました。

品物を提供して下さった方々、カンパをして下さった方々、そしてお買い上げいただいた方々、皆様のお陰と心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

行事報告

●月始祭

八月六日(土)

参拝者 五名

斎主 小林 清人

祭員 妹尾 正治

進行 畠山 茂

●月次祭

八月二十一日(日)

参拝者 三十二名

斎主 瓜生 秀明

祭員 妹尾 正治

祭員 堀 健太郎

祭員 畠山 茂

裏方 青山 将士

典礼 小林 清人

伶人 飯田 直美

伶人 岡田 幸子

伶人 伊藤 美恵子

行事予定

九月十一日(日)

全国一斉世界平和祈願

九月十八日(日)

月次祭・長寿祈願祭

九月二十四・二十五日(土・日)

祭式 講習会

十月一日(土)

月始祭 午後一時半より

大道場修行の感想

●久方の大道場修行に思う

牛山支部 小林清人

私は平成十年に第一回目の修行を受けて以来、二十四年ぶりに受けました。

受講する気持ちになったのは、一つは昨年、宣伝使昇格の推薦を皆様から受け書類提出を致しましたが、二回以上の大道場修行が条件となっていましたので、再度、受講することにしました。もう一つは宣伝使の活動を実践していく中でもう一度、基礎的な知識を頭にに入れて人に接していきたいと思いました。



修行は名古屋から三名、他機関から二名の五名で始めました。私は朝がゆっくりで七時半ごろ起きますが、本部では朝が早いです。朝拝前、万祥殿のお掃除から始めました。最初は苦痛に思いましたが、これが修行だと感じ、いやだなと思う気持ちを捨て神様のためにと切り換え、次の日からは早く起きて積極的に参加する気持ちになりました。

これが大切だなと感じました。これからは家庭内、分苑、地域の活動もこの気持ちを忘れずにいきたいと、今さらに思われました。

●大道場修行を受講して

津島支部 妹尾 正治

今回、牛山支部の小林清人さん・さわやか支部の鈴木克彦さんと共に三名で大道場修行を受けました。

五回目の修行になりましたが、受講ごとに身に着いた汚れが剥がれ落ちて行く様に感じられました。

今年で七十三歳になり、人生の総仕上げかかるタイミングとして貴重な時間になり、リタイヤして自由気ままな日々を送る中で

の大道場修行は、真剣に神さまと対峙出来る有意義な五日間となりました。同行して頂いた友垣と大神様のお導きに心より感謝いたします。

先回からの続き

大本と神宮との繋がりについて

特任宣伝使 堀 宜雄

聖師様は大本の発祥期である明治時代からすでに親しく出雲大神宮(以下神宮)に参詣されていた。当

時(明治三十六年)大本は国から公認を得ていない為に集会も許されず

布教の困難な時代であった。政府の圧迫と干渉は日に日に激しさを増し、その監視と取り締まりに加え大本役員の無理解もあって日夜苦慮を重ねられていた。

聖師様三十五歳の年、かねてから親交のあった神宮の五十三世宮司広瀬侍郎氏の紹介で明治三十九年九月

皇典講究所国史・国文科(京都国学院の前身)に入学される。

神職養成所で神職の資格を取り、宗教活動の合法化への道を得ようとされていたようである。自由闊達な行動をされながらも学業に絵に書け

非凡振りを発揮されて半年間でもって卒業される。ほどなく京都市北区にある建勲神社に奉職される。

その後聖師様の神格が明らかとなつてゆくが、第一次大本事件、霊界物語のご発表となつてゆく中に大正

時代末から昭和にかけて同神宮に足しげく頻繁にご参拝されている。その様子は「真如の光」「日月日記」「更生日記」等の歌日記に数多く記

録されている。昭和八年十月四日聖師様が天祥地瑞の口述を開始されたのは神宮から

寄贈された天恩郷中ノ島にあった千歳庵においてである。この庵も含めて第二次大本事件ですべて破壊、消失された。

昭和九年一月聖師様は神宮に対し木彫りのこま犬一對(木彫家大野明山市作)を献納され大規模な祭典も

執行されている。そのこま犬は本殿内陣に社宝として収まっている

又、日出鷹先生も事件前、神宮にたえず、時には毎日のごとく参拝されてお祈り紐がすりの着物に袴を召して一人で天恩郷から歩いて来られる

お姿を広瀬伯紀氏(五十四世宮司)が畏敬の念をもって眺めていたそうです。

更に、大本は明治二十五年に国常立の尊の出現により発祥したが、父、広瀬侍郎氏から「開祖のなおさんは

神がかりの前に亀岡の広瀬家に縁を持つ家に奉公されていた頃があつて、その折に頻繁に神宮に参つていた」

と、よく聞かされておられたようである。

第二次大本事件中には毎日、二十〜三十人大本信徒の事件解決と聖師、二代様保釈祈願で参拝されていたようであるが、事件の影響が長らく中で両者の接触はほとんどなくな

っていた。

新たな繋がりが出てきたのは大本総代の宇佐美龍堂氏が権宮司を依頼され三代教主様の承諾を得て就任されてからである。

昭和五十五年四月十八日の神宮の花祭りには教主ご名代として出口虎雄氏が参拝。そして、大本本部奉職者による献茶の儀が厳かに清々しく

奉納され、使用された玉碗は三代様の作品であり神宮に献納されている。

又、神宮の五十四世宮司広瀬伯紀氏が退任、大宮司に昇られた折、大本総長であった宇佐美龍堂氏に神宮

側の強い依頼で昭和五十八年一月一日宮司代務者及び神社責任者を任じられている。

この間、昭和五十七年節分の日を機に大本総長及び本部長兼務の重責を負われた宇佐美氏は昭和五十五年春以来、大本内外を騒がせていた

内紛という事態を收拾すべく半教団グループの対応を余儀なくなされ、三代教主様のご意向に沿った苦渋の

決断、決済をなされ、教団にとっても大事な時期でもあった。完

お知らせ

秋季大祭は十月十六日から二十三日に変更になりました